

2015 年度 関西学院大学自己点検・評価
 < C 票 > 第三者評価結果 【人間福祉研究科】

教育研究目標 1

1. 6 年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と 6 年後のめざす姿（目標）との関係性 （※ 6 年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか）	
「具体的である」 3 名	<u>左記を選択した理由：</u> ・ 学問分野としての「人間福祉」学の社会的浸透と福祉の向上に関する具体的な内容となっているため。（評価者 A） ・ 「人間福祉」という学際的領域における研究を充実させ、その成果を社会へと還元することが目標として示されています。（評価者 B） ・ 人材育成の狙いと目標が具体的に示されています。（評価者 C）
「具体的でない」 0 名	<u>左記を選択した理由：</u>
その他気づいた点： ・ 前期課程の目標ですが、後期課程への進学に重点が置かれているようです。（評価者 C）	
6 年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
目標の内容 （設定された 6 年後のめざす姿（目標）の内容は、①各部署の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 全体的に適切なものであると思われます。（評価者 A） ・ カリキュラムの見直し等によって人間福祉に関する学際的な研究についての教育を充実化させることは、研究科の独自性に照らして適切なことです。（評価者 B） ・ 目標の内容は、意欲的な取組みで、妥当であると評価します。（評価者 C）
評価指標 （目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。）	<u><評価者からのコメント></u> ・ 学会・研究会での発表数増加、論文投稿数増加という指標と、後述の行動計画の内容との関連性が明らかではないように思われます。（評価者 A） ・ 妥当です。（評価者 B） ・ これで十分か不明な点ありますが、この評価指標、評価尺度でやってみる意味はあります。（評価者 C）
目標達成スケジュール （目標達成に向けたスケジュール設定は適切か（長すぎないか、短すぎないか））	<u><評価者からのコメント></u> ・ 適切であると思われます。（評価者 A） ・ 適切です。（評価者 B） ・ 研究科としての現状把握は、2017 年度まで時間をかけないで、直ちに実施できるのではないのでしょうか。（評価者 C）

教育研究目標 2

1. 6年後のめざす姿（目標）

教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係	
教育研究目標と6年後のめざす姿（目標）との関係性 (※6年後のめざす姿（目標）は、教育研究目標達成に向けた具体性を持った内容になっているか)	
「具体的である」 2名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学問分野としての「人間福祉」学と「人間福祉」概念の社会的浸透、および福祉の向上に関する具体的な内容となっているため。(評価者A) ・ 人間福祉学研究科博士課程の前期課程と後期課程で一貫して「人間福祉」を学んだ学生へ博士学位を授与することが目的として明確に示されています。(評価者B)
「具体的でない」 1名	<p>左記を選択した理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後期課程入学者に博士学位を授与できるよう教育することは当然のことで、「世界を牽引する研究者の輩出」という教育目標に対しては、不十分です。(評価者C)
<p>その他気づいた点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「単位取得」という文言がありますが、単位は取得ではなく、修得です。大学院設置基準、学則等参照。また、「輩出を生み出す」とありますが、日本語表現として適切ではありません。(評価者C) 	
6年後のめざす姿（目標）の妥当性、適切性	
<p>目標の内容</p> <p>(設定された6年後のめざす姿(目標)の内容は、①各部局の特長を伸長させる内容か、②意欲的な取り組み内容であるか、③客観的に見て妥当であるか、④評価の視点から見て適切か、等の点から評価を行う。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に適切なものであると思われます。(評価者A) ・ 学際的かつ発展途上の学問領域である「人間福祉」を体系的に学んだ学生に博士学位を授与することは、本研究科の教育目的を果たすうえで大いに意義のある取り組みです。(評価者B) ・ 世界を牽引する教育・研究者の輩出という目標に対して、博士学位授与数という評価設定は妥当ではありません。それよりも、国際学会での研究報告、国際的な学術誌での論文掲載などを奨励することが期待されます。(評価者C)
<p>評価指標</p> <p>(目標の進捗を測る上で、設定された評価指標、評価尺度は妥当か。)</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学位授与数増加という指標と、後述の行動計画の内容との関連性が明らかではないように思われます。(評価者A) ・ 妥当です。(評価者B) ・ まずは、博士学位取得者を着実に増やす(累積で)ことが必要ですが、これだけでは目標達成の指標とはならないでしょう。(評価者C)
<p>目標達成スケジュール</p> <p>(目標達成に向けたスケジュール設定は適切か(長すぎないか、短すぎないか))</p>	<p><評価者からのコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切であると思われます。(評価者A) ・ 適切です。(評価者B) ・ 2020年度までは現状と同じです。(評価者C)